



佐々木中学校だより

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

電話 0254 (27) 2505

心の中に温かい炎をもとう

12 月 12 日に、アルビレックス新潟の早川史哉（はやかわふみや）選手が、当校で開催した「がん教育シンポジウム」のシンポジストとして、佐々木中学校を訪問してくれました。（シンポジウムの内容の要旨は、次ページ以降をお読みください）



早川史哉選手は、新潟市出身の 24 歳。大学を卒業して、アルビレックス新潟に入団し、1 年目から即戦力のレギュラー選手として開幕試合に出場しました。それまでのサッカー選手としてのキャリア（下の枠内）を見ても、早川選手のサッカー選手としての恵まれた才能と高校生の頃からの素晴らしい戦績を知ることができます。

2011 年の高校 3 年時に、U-17（17 歳以下の選手を対象とした）ワールドカップ・メキシコ大会の日本代表主力選手として出場し、日本チーム選手の中では最多の 3 ゴールを決める。日本チームのベスト 8 入りに大きく貢献した。

当時の U-17 ワールドカップ日本代表チームのチームには、現在、日本代表選手として活躍する南野拓実選手や中島翔哉選手がチームメイトとして所属していた。

その後、早川選手は筑波大学へ進学し、チームの主将を務め、チームの 1 部昇格を果たした。2016 年に、アルビレックス新潟に入団し、J1 の開幕戦から先発出場を果たす。

佐々木中学校に来校していただいた前後（12 月 4 日（日）、12 月 14 日（金））には、NHK テレビの「サンデースポーツ 2020」や「きらっと新潟」でも、早川選手の闘病生活からアルビレックス新潟のチームメンバーに復帰するまでの日々の特集が放映されていました。これらの番組を見た人も少なくないと思います。

早川さんのサッカー選手としてのこれまでのキャリアや、テレビ番組の中で放映された内容から、早川選手の「困難に直面しても決してくじけない強い心」や「自分の夢を実現したいという高い志（こころざし）」、「闘病中に支えてくれた周囲への感謝の思い」、「病気を経た自分に与えられた使命を果たしたい」といった気持ちが伝わってきました。

佐々木中学校では、ステージ壇上でも降りてからも、笑顔を絶やさず、一言一言に思いを込めて語っていただきました。生徒一人一人からの「早川選手、握手をしてください」との願いにも、柔らかな表情で、生徒を励ましてくれるような明るさで応じていただきました。

早川選手から佐々木中学生に向けて伝えていただいた最後のメッセージは、「心の中に温かい炎をもつ」という言葉でした。

米国の有名な教育者の言葉に、「偉大な教師は、生徒の心に火を付ける」という言葉がありますが、早川選手の言葉には、シンポジウムの聴き手である生徒たちの心に火を付けるだけでなく、生徒の心を温かく包んでくれるような優しさがありました。

さて、平成 30 年も残すところ数日となりました。1 年生は、今年一年間、「初めて」の経験を積み重ね、中学生として大きく成長しました。2 年生は、3 年生をサポートし、学校生活を盛り上げてきた 1 年でした。来年度、最上級生としてのさらに大きな期待に応えられるよう、学年の絆を深め、一層努力してください。3 年生にとっては、学校生活全般を支え、下級生をリードして、生徒会活動でも学校行事でも大きな成果につなげた 1 年でした。自分の力で新たな進路を切り拓くために、年末年始も着実に歩を進め、実力を高めてください。

「がん教育」シンポジウムより 早川史哉選手が恩師と出演

今年度、佐々木中学校は、文部科学省の「がん教育総合支援事業」の一環として「がん教育」に取り組み、12月6日（木）に3年生の保健体育の授業を公開し、12月12日（水）にがん教育シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、シンポジストとして、闘病体験のある2名の方をお招きしました。お一人はアルビレックス新潟の早川史哉（はやかわ ふみや）選手、そしてもうお一人は早川選手の中学校時代の恩師の方です。早川選手からは、急性白血病と診断された2年前から、治療とリハビリを経て練習に復帰した現在までの心境などをお話いただきました。中学校時代の恩師の先生からは自身の乳がん治療の体験に触れながら、時折、早川選手が中学生時代に合唱コンクールに人一倍がんばって、怠けがちな友人を叱咤激励していたというリーダー性豊かな姿も紹介していただきました。



約90分のシンポジウムでしたが、コーディネーターを務められたフリーアナウンサー東村恵子さんから、シンポジストのお二人の様々なエピソードを引き出していただき、テンポよく進行していただいたおかげで、生徒はもちろんその場にいた誰もが、もっとお話を聞きたいと思えるような時間となりました。

早川 史哉 選手のお話から

私は2016年にアルビレックス新潟に入団しました。入団して半年くらい経った頃に、身体の不調が感じられるようになり、練習メニューにしっかりついていけず情けない気持ちをいただくようになりました。前の日の練習の疲れが上手く解消されなくて不安を抱いていた頃、ちょうど一年に一回のメディカルチェックがあり、その血液検査の結果から急性白血病だと分かりました。これまで練習にしっかり付いていけなかったのが自分の実力不足が原因ではなく、病気が原因だと分かり、宣告を受けたときに「ほっとした」ことを覚えています。

苦しい日々もありましたが、病気とまっすぐに向き合う原動力となったものは、やはり周囲の家族や友人のサポートです。サッカー関係者のみなさんの応援の温かさが支えになりました。サッカー関係者の方の応援や支えが本当に有り難くて、病気を克服して、取り組みたい自分の目標が明確になってきました。これからの大きな夢は、ビッグスワンのピッチに立って活躍している姿を多くの皆さんに見せることです。白血病の闘病体験をもつサッカー選手という個性も大切にしつつ、笑顔と温かな思いを周囲に伝えたいです。自分が体験したことから感じた気持ちをブログ等で発信すること、自分にしかできないことだと理解しています。周囲の人からは、「自分の辛い体験をさらけ出すのか」と言われることもありますが、僕自身はまったく気になりません。それはなぜかと言えば、「闘病中に、理不尽さに負けそうになり心がねじ曲がってしまった時の自分よりも、恥ずかしいものは何もない」からです。これからも、プロサッカー選手になるという夢を追いかける姿を示しながら、他に影響を及ぼせるようになりたいと思います。ブログやツイッターを更新しながら、自分の思いをどんどん伝えていきたいです。



現在、中学3年生のみなさんも進路選択に悩んでいることと思います。僕も中学校を卒業する時に、アルビユースのチームに入るべきか、普通高校に通学するべきか、進路選択に大きく

悩みました。そこで決め手となったことは、将来の自分を想像した時に、「自分が一番輝いている時は何をしている時の自分か」ということです。僕は、サッカーを中心に進路を選択しましたが、もちろん、サッカーだけに熱中しようとは思いませんでした。サッカーだけに取り組むのではなくて、学生の本分である「勉強」を継続することが、自分の人生のプラスになると考えました。サッカーと勉強との両立ができて、初めて「自分らしさ」が生まれると思ったのです。



僕自身、学生時代には大きな挫折はありませんでしたが、卒業後にどの道に進むべきかを判断し、決定することはとても難しかったです。「何になりたいのか」「最終的に、どういう人になりたいのか」をしっかりと考えることが一番大事です。そして、自分の将来への思いをしっかりと親に伝えることは欠くことはできません。自分で考えて自分で結論を出したことに對しては、言い逃れは絶対にできません。自分で自分の将来を決めることができるということは、一見、とても自由な感じがあるように思えますが、実はとても大きな責任が伴うことです。

今日のお話の最後に、中学生のみなさんに伝えたい言葉は「心の中に温かい炎をもつ」という言葉です。心の中に温かな思いやりの気持ちをもつこと、そして笑顔を大切にすること。思いやりの心をもっていろんな人と接してほしい。あなたが、笑顔と温かな炎を持ち続けながら相手に接することができれば、それが何倍にもなって戻ってくるはずです。(文責 校長)

早川選手の中学校時代の恩師のお話から

闘病中に、入院している時には、見舞いに来た誰からも「がんばれ」とは言われませんでした。いろんな人から「本当にがんばっているよ」という言葉を掛けてもらいました。見舞いに来た皆んなから、普段通りの言葉をかけてもらえたことが何よりも嬉しかったです。「がん」と診断されたことで、不安が少なからずありました。そんな時に、友人からの「私は医者じゃないけど、私から見ると、大丈夫だよ」という言葉が、病気に苦しんでいた私を前向きにしてくれました。言葉から、「私は治ると信じている」という気持ちが伝わったからです。その友人が、今日の前にいる、佐々木中学校のM教頭先生でした。苦しんでいる人を目の前にしてどう接することができるかは、とても大事です。そういう場面では、リアルに個性が表れます。

私は、若い頃からいつも強気な性格でしたが、がんを発症したことで、弱い人の気持ちに寄り添えるようになりました。がんにかかること＝不幸だと思っていましたが、「がんにかかることは不幸ではない」「Cancer Gift (キャンサーギフト)」という言葉に出会いました。それまでは、自分の職業として選んだ「教師」が、自分に向いていないんじゃないかと考えたこともありましたが、同僚や教え子から温かく励まされるなかで、「教師になってよかった」と心から思えるようになれました。そして「がんを不幸と思わなくてもいい」と考え始めることができました。辛さを抱えていると、自分の心の中だけで何度も悩んだり考えたりしてしまいがちです。ですが、悩みを発散したり、発信したりすることで、あなたの前に必ず助けてくれる人が現れます。あなたと同じ悩みを共有できる人が必ずいます。ですから、日頃から友だちを大切に、友だちを頼ってください。自分の思っていることを周囲に向けて発信してください。発信することが一番大切です。

若い中学生の皆さんから「がん」について学んでもらえて嬉しいです。命は、誰にでも平等に一つずつ。生きている間に命をどう使うべきかを考えてほしいです。一日一日をどう生きるかをしっかりと考えてみてください。今という一瞬一瞬は当たり前ではなくて、大切な時間だと受け止めて、生活してほしいです。

シンポジウムに参加して 生徒の感想から

3年 SC 私はこれまで、「病気になったからこそ得るものがある」といった話は、所詮、絵空事（えそらごと）であろうと考えていました。確かに、他の人とは違う経験にはちがいないが、病気になったことで得るものといったら、恐怖・悲哀など、悲劇の材料にはなっても、明るい人生を築くためにプラスに働くとは思えないものばかりだろうと考えていました。ですが、今回のシンポジウムで、がんの辛さから立ち上がったシンポジストの方を見て、考えを改めました。悲哀というマイナスな事柄も、間違いなく人に影響を与え、目に映る世界を変えています。それは決して無駄ではないし、それで得る個性は確かに、その後の人生を明るくしてくれるのだと思います。今回のシンポジウムで、私の今までの考え方が変わるような貴重な体験ができたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

3年 SK シンポジストのお二人は、どちらも検査の中で「がん」が見つかったと聞きました。定期的に検査をしても、がんになるんだなと思いました。でも、何もしないでいて、がんが見つかるのが遅くなるよりは、検査をした上で早く見つかる方が早期に対応ができるからいいことに違いはないと思いました。もし自分が同じような状況になった時には、一人で悩まずにいろんな人に相談してサポートしてもらったり、同じ病気の人と悩みを共有したりして、心の負担を軽くしたいと思いました。何よりも、どんな病気にかかっても前向きにポジティブに生きていけるような強い心の持ち主になりたいです。

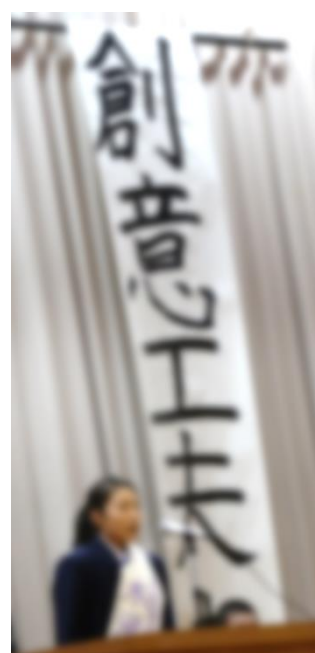


平成31年度の生徒会長・副会長・応援団長が決定しました

12月5日(水)に、新生徒会役員立候補者立会演説会が行われました。各役職に立候補した生徒とその責任者の8名がステージに昇り、責任者が立候補者の人柄やその役職にいかにかかわしいかを紹介し、続いて、立候補者が生徒会活動への抱負を語りました。8名全員が、ステージ上での姿が堂々としており、聴き手の全校生徒に向けて、自分の思いをストレートに語っていました。今年度の生徒会選挙では、各役職への立候補者が1名であったため、その後の投票は「信任投票」で行われました。開票の結果が翌朝公表され、すべての候補者が「信任」を得ることができました。いよいよ、新たな2019年度の生徒会の体制が固まってきました。



新生徒会長 2年 KM 生徒会長に立候補した理由は2つあります。一つ目は、全校にかかわり、まとめられるようになりたいと思ったからです。二つ目の理由は、二年間務めた学年委員会で身に付けた力を生かして、佐中をさらに生徒の希望に添った学校にしたいと思ったからです。私の立候補にあたってのスローガンは「**創意工夫**」です。このスローガンのように、新しいことにどんどんチャレンジしていこうと思います。そして、佐中を他校の人に自慢できる学校にしていきたいです。そのためにやってみたい活動が2つあります。一つ目は生徒会歌の練習を増やすことです。全校生徒が生徒会歌を大きな声で歌えることは、自分たちの学校を誇りに思えることにつながります。全校生徒が自信をもって歌えるように練習をしていきたいです。二つ目は、全校でのレクリエーションの回数を増やすことです。レクを通して、生徒間のコミュニケーションが図られ、協調性が高められます。このことも、自分たちの学校を誇れる一つになると考えています。私は紹介した以外にもいろいろな企画にチャレンジします。皆さんも新しいことにチャレンジしてみてください。新しい佐中を全校生徒で創り上げていきましょう。



新生徒会副会長 2年 NT 僕が副会長に立候補した理由は、先輩方の生徒会活動に取り組む姿がかっこいいと思ったからです。今年一年、僕は生徒会総務として先輩方と一緒に活動をして、生徒会スローガンを作ったり、生徒会行事の準備をしたりしている先輩の姿を見てきました。今の生徒会の良さは残しながら、さらによい佐々木中にしたいと思い、立候補しました。

僕が目指す佐々木中学校は、佐中生一人一人が自分の力を発揮できる学校です。自分の力を発揮するためには、生徒同士の信頼関係が大事だと思います。先輩、後輩の区別なく、自分の意見を遠慮なく言える関係が必要だと思います。具体的には、学年縦割り班の活動を、清掃以外の活動でも取り入れます。学年の違いを越えて一緒に楽しむことで、信頼関係も深まるはずです。その実現のために、僕は**奮励(ふんれい) 努力**します。



生徒会副会長 2年 KR 私が副会長に立候補した理由は2つあります。一つ目は、この一年間生徒会総務の一員として学んだことを無駄にしたくない、しっかり生かして、佐々木中をもっと積極的に行動できる学校にしたいと思ったからです。二つ目は、誰かをサポートすることには自信があるからです。今年一年で、生徒会活動の大変さや上手くいくやり方を知ることができました。その経験を生かして、生徒会長のサポートをしつつ、初めて総務に加わる人たちのサポートをしていきたいです。副会長として生徒会本部の人たちが積極的に動けるように一つ上の行動を心掛けます。

そこで、私の考えたスローガンは「**進取果敢（しんしゅ かかん）**」です。この言葉のように、色々なことに積極的に挑戦していきたいです。副会長として次の2つのことに取り組みます。一つ目は、現在のあいさつ運動のやり方を変えて、部活動単位のあいさつ運動を取り入れます。二つ目は、全校生徒での行事を増やしたいです。レクリエーション的活動を増やし、生徒同士のつながりを強くしていきます。先輩たちが作ってきた佐中の良さを残しつつ、改善すべき所は治していき、よりよい佐々木中学校を作りたいです。

新 生徒会応援団長 2年 MM 私が応援団長になろうと思った理由は2つあります。一つ目は、私が今まで所属し、取り組んで応援団の活動を通して、他の人にも勇気をあげたいと思ったからです。私が一年生の頃には、応援団としての朝の玄関前のあいさつ運動では、あいさつの声もあまり出ず、マスクを着けたままあいさつしていました。2年生になってからは、1年生の頃よりも一歩前に出て、もっと大きな声を出してあいさつができるようになりました。応援団は、恥ずかしがっていた私に勇気を付けてくれました。そこで今度は、私が団長になり、他の人にも勇気をあげたいと思いました。二つ目は、今の自分に勝ちたいという思いからです。私は朝早く起きることが苦手です。そのため、朝のあいさつ運動に遅れてしまい、団長の輝さんに「すみません」と謝まることが何度もありました。そんな自分の弱さを、応援団長としての自覚をもって、克服していきたいです。そこで、私が考えたスローガンは「**心に届く魂のエール**」です。応援を通して、学校全体の絆が深まるようにします。絆が深まっていく佐々木中学校にするために、佐中サーキットでの声の量を増やしたいです。「ガンバ」や「ファイト」を全校の皆さんに言ってもらえるように私が精一杯声を出します。そして、激励会の声を大きくしたいです。「激励」という言葉には、「はげます」や「奮（ふる）い立たせる」という意味があります。私は、応援団長として、全校の皆さんと一緒に、選手のやる気を奮い立たせたいです。応援は一人だけが頑張っても、一人分の応援にしかかりません。全校生徒が全校生徒分の応援の声を届けられるようにしていきたいので、私に皆さんの力と声を貸してください。



どうする？どうしたい？佐々木中学校

12月13日（木）に、佐々木中学校体育館で、佐々木中学生全員と佐々木小学校6年生による「全校道徳」を実施しました。

今回の全校道徳のねらいは、

みんなが過ごしやすい、よい良い学校を作るために、自分たちができることを考え、それを意識しながら学校生活を送ることができるようになる。

です。

最初に、アイスブレイキング（自己紹介や握手ウェーブ）で各グループ内のメンバー同士の交流をし、雰囲気や和む工夫から始まりました。次に、一人一人が、「佐中のいいところやアピールポイント」と「残念なこと、問題点」を付箋（ふせん）に書き出します。

その後、佐々木中学校の現状に基づきながら、「具体的に、これからどういう学校にしたいか」を話し合いました。

各グループには、大きな丸い記録用紙（エンタクン）が用意されており、中学生と小学生が思い思いの考えを、エンタクンに書き出していきました。「大きな見出し」で書き出された内容には、次のようなアイデアがありました。

- 人の意見を笑わない（冷やかさない）
- 複数学年が一緒に取り組む合同授業を増やす
- 佐々木中の良いところを宣伝する
- 「です・ます」を意識して生活する
- あいさつの声よかった人を放送で発表する
- 相手の良いところを見つける
- 環境整備や他校との交流など校外や人前に出る活動を増やす
- 「あいさつランキング」を作る
- 朝のあいさつ運動に、先生方にも立ってもらって一緒に取り組む
- 「積極的になろうキャンペーン」をする
- 給食の残量が減るように「残量調査」をする
- 自分がされて嫌なことはしない
- 誰でも楽しめるようなイベント（レク）をつくる
- 生徒手帳が十分に活用されていない（分からないことは手帳を見る）
- 先生方から、生徒が相談ごとがあった時にはいつでも相談に乗ってもらう
- 朝、歌を歌う機会をつくる
- 地域の人にも参加してもらって避難訓練を行う



「全校道徳」後の生徒の振り返り

◇僕は移動するのがギリギリになることがあるので、これからは時計を見て行動し、3分前には教室にいるようにします。(1年 TR)

◇私は普段、自分から発言したりしていないので、これからはしっかり発言していきます。そうすれば学校全体が積極性の溢れるナンバー1の学校になると思います。(3年 NA)

◇今、学校ではあいさつが出来ているから、それを校外でもする。積極的に動くために、1日1回以上手を挙げることを目標にする。

(2年 KR)

◇朝は眠いときもありますが、他学年のみんなとの絆が深まるように、自分からあいさつをして、もっと絆を深めたいです。(1年 YY)

◇応援を元気な声でします。学校の中だけでなく、地域の人にも積極的にあいさつするようにします。みんなが気持ちよく学校に来られて、絆を深められるように、互いのよい所を言ったり、気持ちを伝え合ったりします。(2年 GS)

◇生徒会歌や校歌を積極的に歌う。まずは歌詞をちゃんと覚える。廊下などがよごれていたら、人任せにせずに、自分がきれいにする。

(1年 KA)

◇地域の人と中学生がもっと仲良くなるために、交流の場を作り、避難訓練を地域の人と一緒に取り組む。学校に来校された地域の人にも自分から積極的に大きな声であいさつをする。

(2年 OT)

◇もしいじめが起きていたら、すぐに先生に報告して、やめるように言う。あいさつをされたら、相手の目を見て、相手に聞こえる声であいさつする。(3年 YR)

◇来年は最高学年になるので、全校のリーダーとして見本となる生活をする。そのために、学年に関係なく挨拶をし、挨拶を返して、もっと生徒間の仲を深めていくことができるように明日から実行したい。(2年 YH)

◇私は、自分がされて嫌なことはしてほしくないの、嫌なことをしている人がいたら注意します。挙手をしないのは、周りの環境が手を挙げにくくしていると思うので、発言をしたら笑わないし、責めません。(3年 TR)

◇私は積極的でなく、挙手をしたり、自分の意見を言ったりすることが得意ではないので、これからは意見をたくさん言って、他の人の意見だけを聞いているような人任せの態度や行動をとらないようにします。(2年 SH)

◇来年からは新しく入学してくる1年生に教える立場になっていくので、今年1年間学んだ事を来年教える時に活かしていきたいです。あいさつも大きな声でしていきたいです。(1年 SR)

◇向上していくことも大事だけど、今あるものを大事にしていきたいので、今ある一つ一つの行事を大切に真剣に取り組んで、絆を深めていきたい。もっと活発になってほしいので、自分からまず動いてみる。

(3年 FH)

◇歌やあいさつなどの声が小さいという意見に対して、私はこれからしっかり歌を歌ったり、あいさつをすうるという気持ちをもって生活していきます。(1年 HN)



11月～12月にかけて、佐中生が様々な学習に取り組みました

新発田城三階櫓見学

11月29日（木）に、2年生と1年生が新発田城の三階櫓（さんがいやぐら）の見学に出かけました。新発田市では、市内小学生が小学校在学時の新発田城見学の時に「三階櫓」を見学します。しかし、現在の中学1年生と2年生は小学生の頃に、三階櫓の見学の機会がもてなかったとのことで、「ふるさとしばた」に親しんでもらいたいという

文化行政課からの依頼で、今年度、中学2年生と1年生を対象に「三階櫓」見学が実現しました。（新発田城「表門」は、国指定重要文化財です。三階櫓は平成16年に復元されました。）

1年 OT 今回、新発田城を見学して思ったことがあります。それは普段は入れない「三階櫓」についてです。三階櫓は、その名の通り、三階建てですが、他のお城と違う所があります。それは鯨（しゃちほこ）です。普通のお城なら、鯨は4つありますが、新発田城には鯨が3つしかありません。なぜなのかという理由は分かりませんが、僕は「新発田城だけの特別なこと」だと思います。

今回の見学では、ちょうど天気にも恵まれていたので、三階櫓を見学したときに、外側から三階櫓の高い所を見上げると、3つの鯨（しゃちほこ）をよく見る事ができました。

人権強調週間の「生きる IV」を活用した授業実践

12月3日（月）～10日（月）の期間は、人権週間でした。当校でも、この期間に各学年で「生きる IV」を活用した授業実践を行いました。

1年生では「人の値打ち」

2年生では「水平社宣言」

3年生では「就職差別」の資料を読みながら、「相手の気持ちを考えること」や「違いを認め合う心を育むこと」といった視点からの授業実践を行い、「人権教育、同和教育」についての理解を深めました。



3年生の保健授業として「がん教育」の公開授業を開催

12月6日（木）に、3年生の保健体育で「がん教育」公開授業を行いました。当日は、県内各地から参加いただいた約40名程度の教育関係者に授業実践をご覧いただきました。当日の授業は、T養護教諭と体育科のY教諭とのチームティーチングで行われ、「健康な生活と病気の予防」の「がんの予防」が主なテーマでした。大勢の参観者が見つめる中でしたが、3年生の生徒たちは普段通りの伸び伸びとした姿勢で、グループでの意見交換の内容をホワイトボードにまとめながら、一生懸命に授業に取り組んでいました。



3年 WH 今回の授業で、がんは予防できること、しっかり検診を受ければ早く発見できて、早く治すことができる可能性が高いことが分かりました。がんについてしっかり知ること、がんという病気に対する見方が変わりました。学んだ知識を生かして、健康な生活を送りたいです。



表門前で記念撮影



一年生が佐々木小学校で「総合学習」の成果を発表

11月22日（水）に、一年生全員が佐々木小学校に出かけ、小学6年生と5年生に向けて、今年一年学習してきた「総合学習」の成果を発表しました。

はじめに、学年代表のTさんとNさんが開会のあいさつをしました。昨年まで一緒に小学校で過ごしていた先輩が中学校に進級し、成長した姿で目の前に立ち、堂々と発表する態度に、小学生も目を丸くしていました。

代表の二人によるあいさつに続き、小学校の体育館の四隅に4グループが分かれ、それぞれが自分たちの学習のまとめを発表しました。5年生と6年生はグループに分かれて、中学生の発表一つ一つを聞いて回りました。

中学生は、自分たちの発表を、小学生から興味をもって聞いてもらおうと、クイズを用意したり、ゆるキャラを創作したり、小道具を用意したりと色々な工夫をして、発表していました。また、同じ発表を4回繰り返しましたが、発表の度に課題を改善しようと努力しながら、最後の4回目の発表ではプレゼンテーションの力が向上し、小学生の表情をしっかりと確認しながら、落ち着いた態度で発表することができていました。

1年 TA 私の班が工夫したことは、小学生にとって分かりやすいように、説明する文章中に出てくる歴史上の人物を詳しく説明したところと、興味を引くような「一朗くん」という佐々木のキャラクターをつくったところです。地域の良いところをそのキャラクターに取り入れ、小学生に分かりやすくアピールすることができました。

1年 NK 僕が総合発表会で工夫したところは、小道具作りです。僕たちのグループでは、「どうやったら小学生を笑わせることができるか」という意見が出たので、カメラやマイクなどの小道具を作ったり、お客さんである小学生を巻き込むようなイベント（クイズなど）を入れたりして、小学生が僕たちの説明を笑顔で聞いてくれるように工夫しました。

小学6年生の感想

○僕はどの発表も良かったと思います。佐々木や鳥穴の事を細かく説明し、小道具を使って面白おかしく説明していて、勉強になりました。クイズは簡単かなと思いましたが、意外な答えがあり驚きました。豆知識も含まれていてすごいと思う所が多かったです。

○僕は「一朗くん」が印象的でした。それは、ポスターに描かれていた「あの絵はなんだろう」と思っていたからです。発表を聞いて、佐々木のキャラクターだということがわかりました。一朗くんを好きになったので、応援したいです。

○発表を聞いて、佐々木のことがよくわかりました。分かっているようで、知らなかったことがたくさんあったので、いろんなことを知ることができて良かったです。家の人にも教えてあげたいと思いました。新聞の形式のポスターや劇を取り入れての発表だったのでとても分かりやすかったです。



“See You Again” R先生の離任式

12月11日（火）、朝、ALT（英語指導助手）のR先生の離任式を行いました。

R先生には、本年度だけでなく2年前（平成28年）にも、毎週英語を教えていただきました。

全校生徒に向けての離任のスピーチは、最初に英語だけで、次に、それを日本語に訳した内容を話してくださいました。その後、R先生は全学年、3時間の授業に参加し、生徒はR先生との最後の英語の授業を楽しみました。R先生の退勤時には、多くの生徒が職員玄関から駐車場まで拍手とハイタッチで見送り、R先生との別れを惜しんでいました。

Good morning, everyone. Today is my last day at Sasaki Junior High School. In one week, I will be returning to New Zealand after more than 17 years in Japan. It still seems unreal.

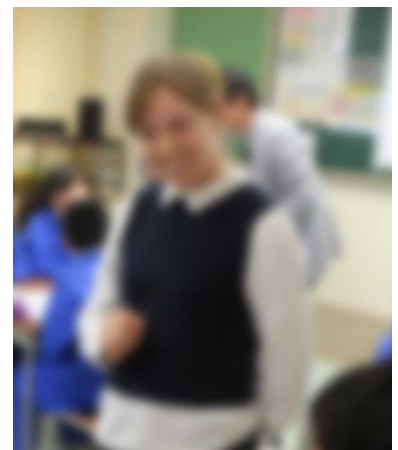
I have taught at Sasaki Junior High School for just one year, (but actually this is my third time teaching here) and I have really enjoyed my time with you. I feel very lucky that I got to do a job that gives me the chance to laugh and have fun with so many lovely students and teachers.

English is a difficult language to learn, but when I see you trying hard to use it to communicate, I feel so happy.

I hope in the future you will use English to help you accomplish your dream, whether it be a professional athlete, a nurse, a teacher or to visit your dream country. English can help you achieve your goal.

In the next few years I will face many challenges getting used to a new life in New Zealand, and you will face new challenges too. - getting into high schools and meeting new people. We must be strong, positive and do our best. I don't want to say good-bye, so I will say, see you again!

おはようございます。今日が私の佐々木中での最後の勤務日です。あと一週間で、17年間の日本での生活を終え、ニュージーランドに戻る予定です。まだ実感がありません。ちょうど1年間、佐々木中学校で英語を教えてきました。（実は佐々木中での勤務は三回目です）みなさんとの時間がとても楽しかったです。たくさんの素敵な生徒のみなさんや先生方と笑い合ったり楽しい時間を過ごしたりできるこの仕事に就けたことはとても幸せでした。英語は学習するには難しい言語です。でも、みなさんが英語を使ってコミュニケーションをしようと一生懸命にがんばる姿を見ると、とても嬉しくなりました。将来、みなさんが、プロスポーツ選手や看護師や教師であったり、あるいは思い描いている国を訪れたりするなど、自分の夢をかなえるために英語を使う日が来るでしょう。英語は、あなた自身の目標の実現に役立つはずです。



これからの数年間、ニュージーランドでの新しい生活に慣れていく中で、私はいろいろな挑戦に立ち向かっていきます。みなさんにも、高校への入学や新しい人との出会いなど、新しいチャレンジが始まります。私たちは常に、強く(strong)、前向き(positive)でなければなりません。そして、ベストを尽くし(do our best)ていかなければなりません。

私はみなさんに「さようなら」とは言いたくありません。ですから、この言葉をみなさんに送ります。“See you again”(また会いましょう)

生徒を代表して2年生のNさんがレベツカ先生に感謝のことばを述べました。

We are going to miss you. I enjoyed your lessons very much. And I also liked them. I'll never forget great times when we spent with you. I hope that you will come back to Sasaki. We'll be looking forward to seeing you next time again. Take care. Bye.



僕たちはレベツカ先生に会えなくなるのがさみしいです。僕はレベツカ先生の授業がとても楽しみでしたし、大好きでした。レベツカ先生と過ごした楽しい時間をいつまでも忘れません。レベツカ先生、また佐々木にいらしてください。レベツカ先生に会えることを楽しみにしています。お元気で。

最後に、3年生2名が感謝の気持ちを込めて、花束を手渡しました。

R先生に代わる新しいALTの先生は、1月8日(火)に着任します。

今年度英語検定の合格者

準2級 S(3年)
3級 I(3年)
H(1年)
Y(2年)
5級 S(1年)

今年度第2回漢字検定の合格者

4級 G(2年)、S(2年)、Y(2年)
W(2年)、H(1年)
5級 K(1年)、O(1年)、G(1年)
T(1年)

次回の漢字検定は、来年度の7月です。頑張ってください。

平成30年度 第3学期の主な予定

月	日	曜日	主な予定	月	日	曜日	主な予定	月	日	曜日	主な予定
1	4	金	3年生 1月実力テスト	2	1	金	スマイルアンケート	3	4	金	スマイルアンケート
1	7	月	3学期始業式	2	4	月	生徒総会	3	4	月	同窓会入会式
1	8	火	スマイルアンケート	2	5	火	教育相談週間(～8日)	3	5	火	卒業式予行
1	18	金	生徒朝会	2	7	木	放課後活動停止(～14日)	3	6	水	公立高校 一般入試
1	25	金	英語検定	2	12	火	公立高校 特色化選抜面接	3	7	木	公立高校 学校独自検査
1	25	金	3年生進学面談(～29日)	2	14	木	3学期期末テスト①	3	8	金	卒業式
1	30	水	心の温度アンケート	2	14	木	公立高校 特色化選抜結果通知日	3	11	月	公立高校 一般「追試験」
1月22日(火)新発田中央高校(推薦)入試 1月23日(水)新発田中央高校(専願)入試 2月2日(土)3年生 2月実力テスト(希望者) 2月8日(金)県立特別支援学校 入試 2月15日(金)県立特別支援学校 合格発表 いです。				2	15	金	3学期期末テスト②	3	12	火	公立高校 一般「学校独自検査」
				2	19	火	公立一般入試 出願	3	14	木	公立高校 合格発表
				2	20	水	2年生スキー教室 1年単元別テスト	3	20	水	給食 最終日
				2	21	木	新発田南高校土木科防災プレゼン	3	22	金	終業式 公立二次試験
				2	27	水	1年生スキー教室 2年単元別テスト	3	26	火	離任式
				2	28	木	体育文化後援会総会				

12月も生徒の明るい表情が溢れていました



12月3日 スクールバス運行開始



12月10日 作品展飾り付け作業



12月7日 新生徒会三役に任命証



スマイルウィーク期間のあいさつ運動



松ぼっくりツリーをプレゼント



12月18日 佐中フェスティバル



人権作文 表彰



12月13日 小学生と一緒に佐中サーキット



ライトセーバー振り回し隊のパフォーマンス



12月18日 球技大会



球技大会の応援